

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201161		
法人名	社会福祉法人 緑新会		
事業所名	グループホームしんわ		
所在地	熊本県天草市新和町小宮地763番地2		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町村受理日	平成24年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	平成23年12月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員それぞれの意見を、管理者・運営者はよく耳を傾け、反映させている。職員はのびのびと働き、自分たちで考えながらより良いサービス提供に努めている。管理者・運営者は軌道修正や助言を行なっている。  
 ・常日頃から、利用者様に対して自由な生活空間を提供できるように、環境面の整備を徹底している。また、利用者様からのサインを見逃さず、要望にすばやく対応するように努め、行動を制限する声かけを行わないようにしている。コミュニケーションにおいては、地方の方言を多用せず、丁寧な言葉かけを心がけ、明るく楽しいコミュニケーションをとるように努めている。また、利用者様の性格や好みに応じてアプローチを変え、「笑顔」を引き出す工夫を行なっている。  
 ・家庭的な雰囲気になるように、様々な視点から環境整備や装飾、家具の使用及び配置などに気を配っている。  
 ・サービスの質の向上のため、南熊本ネットワークを形成し、施設間研修の中で「良いところ」「改善が必要なこと」を隠さず報告しあい、その結果をもとに改善計画を作成、改善に向けた取り組みを行なっている。また、定期的に報告会を行ない、天草圏域その他の同業種に向けても取り組み内容を公表している。  
 ・職員研修に力を入れており、法人全体での職員研修や、月1回のGH内研修の実施、各種研修会参加にも積極的に参加している。情報の共有もよくできている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院・社協・保育園や母体特養が集めた福祉ゾーンの中にあるホームは、キャラバンメイトの活動を通して地域のボランティアがホームを訪れたり、グループホームとして地域へ周知されてきており、個々に添ったサービスを法人全体で支えている。「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念の基、職員自らが考え入居者目線でのケアを実践し、他事業所と連携した相互研修は職員間の意識改革となり、法人共通理念の「笑顔」となって表れている。運営推進会議の多彩なメンバー構成により積極的な意見交換がされ、今年実施された看取りケアを報告し有識者からの意見が寄せられるなど有意義な会議となっている。地域の核として貢献を続ける法人と共に、グループホームしんわの地域貢献は広がりを見せている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度始めに事業計画を設定、運営方針・運営理念を記載した事業計画書を各職員に配布し、意義を理解してもらおうと共に、各種会議等にて理念・方針に基づいたサービスを提供するように話し、定期的にケア提供状況を確認している。	地域住民の要望であった福祉ゾーンの中に法人施設と共にあるホームは、法人理念の「笑顔」をキーワードに「ゆっくり、一緒に、楽しく」とホームの理念を掲げ、事務所に掲示し、職員会議の中で理念に添ったケアへの振り返りを行っている。又年度初めに理念を深めた事業計画書を作成し、職員間で共有すると共に実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーなどでの買い物や行事参加、外出などを通して交流を深めている。行事などでは地域住民の方からボランティアに多数参加して下さるようになってきている。	福祉ゾーン内にある保育園の運動会に参加したり、地域の祭り(夏祭り・楊貴妃祭り・虫追い祭りなど)の見物に出かけたりと交流を深め、法人との合同行事の「夕涼み会」には花火を実施し、地域の方の楽しみとなっている。又、認知症サポーター養成講座を通し老人会とのかかわりも深まってきており、シルバーヘルパーの来訪や各老人会からの訪問などがあり、グループホームとしても地域に周知されてきている。	近隣に民家も少なく、気軽に立ち寄れる環境ではないが、近くの保育園などと交流もあり、散歩のついでに寄っていく関係作りへの取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献には特に積極的に協力するようにしている。また、キャラバンメイトの活動を通じて認知症の理解を地域へ広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業計画・実績の報告、自己評価・外部評価報告、活動実績、サービス提供実績の報告、ヒヤリはっと事例報告などを行なっている。会議内容は会議録を作成し、職員・家族へ公開しサービスの改善につなげている。	定期的開催されている会議には地域や家族・包括・有識者の他入居者も参加し、ホームからの現状・活動報告がされ、意見交換が行われている。ヒヤリハットや看取りケア、防災関係、相互交流など毎回多くの報告に関しての意見が寄せられ、有意義な会議の様子が議事録により窺われる。外部評価への取り組みの報告を行い、会議録を職員間で共有し、玄関に開示している。	会議のメンバーに関して、地域や家族の参加を多くしていきたいとの意向であり、実現が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営基準の確認や各種加算体制状況の報告、サービス提供の報告を通じて、担当者との連携を図り、情報共有ができる関係が構築できている。	市の担当者とは普段から相談などで連絡を取り合い、各書類・運営推進会議議事録の提出時などにホームの現状を伝えたり、市からの情報を貰うなど情報共有を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束委員会に参加し全体的またはGH独自に取り組みを行ない、議題提起や報告を行なっている。また、研修会参加や勉強会等により、正しい知識を職員全体へ周知させ、身体拘束のないケアを実践するよう指導している。	職員は法人やホーム内研修で身体拘束についての理解を深め、何気ない言葉などに関してはその場で注意しあうように努め、拘束のないケアを実践している。玄関も昼間は開錠し、所在確認や見守りでの対応で自由に出かける入居者に話をしながら散歩に出かける職員の姿があった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待防止マニュアルの策定及び、法人・GH内で研修や検討会を随時行なっている。職員へのストレス対策についても、スポーツの振興や趣味の活用、話を聞く場を設けるなどの対策を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加し、研修内容は法人職員全体に向けて説明会を実施。計画作成担当者が権利擁護について担当し、責任もって対応させることとしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申請を受け付けた段階で、重要事項の説明を行ない、グループホームにおけるサービス内容や入退所の条件などを示し、質問や見学などを受け付けている。入所契約を交わす前にも十分な説明を行なうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に職員は利用者様の声に耳を傾けて、様々な意見や要望を受け入れるようにしている。堅苦しい雰囲気ではなく、日常会話の中で自然に受け止めるようにしている。また、第三者委員会への苦情受付も行なっている。	日常の会話の中から入居者の希望を聞くように努めており、玄関に意見箱を設置し、家族の訪問時には本人の様子や取り組んだ事などを話し家族からの意見の収集を図っているが、特別な意見や苦情は寄せられていない。相談簿の作成や重要事項説明書にホームの窓口以外に第三者委員や公的窓口を記載し、透明性の確保に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は職員の意見をよく聞くようにし、運営方針に反映させている。また、月1回のグループホーム会議にて、様々な意見を出し合い、管理者・運営者に報告している。重要事項については運営者を含め、全体会議を行なっている。	同法人特養の事務長を兼ねる管理者は、職場環境や職員のストレス軽減にも気を配り、現場職員の声を活かしたいと積極的に関わりを持つように努め、職員からも何でも言い合える関係が構築されている。毎月の職員会議で出された意見・提案を運営に繋げ、時には全体会議の場で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、職員個々の努力や実績を勘案し、給与につなげている。評価システムについては随時研修を行っており、評価する側のスキルアップも図っている。職場環境については、職員からの要望などを取り入れ環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成については、人事考課を通じて仕事の成果を正當に評価し、フィードバックを行なうことで、職員のモチベーションの維持に努めている。研修については、GH内研修を始め、法人内研修を定期的を実施し、外部研修についても、できるだけ受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草圏域GH連絡協議会に加入し、定期的に研修会や忘年会などに参加している。馴染みの関係が構築でき、活発な意見交換や情報交換を行なうことができている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のアセスメントや、日常会話の中で訴えや要望を聞くようにし、常日頃から利用者様が訴えや要望を伝えやすいような環境作りに努めている。約半年～1年ごとのアセスメントを行ない、サービスに反映するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員皆が明るい挨拶を心がけ、会話を多く持つように心がけている。なじみの関係から信頼関係を構築し、要望を多く引き出している、適切に対応するように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常を通して利用者様と接する中で、様々な視点から物事をとらえ、必要とされている支援を見出すように努めている。様々な状況に合わせて、他のサービス利用も選択肢の一つとして提示するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ゆっくり、いっしょに、楽しく」をモットーに、家庭的な雰囲気作りやゆっくりとした時間の流れとなるように努め、笑顔で寄り添うケアを大事にしている。声かけする場合は、方言を多用せず、言葉のニュアンスに気をつけ、慣れ慣れしくならないように気をつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と御家族のニーズにひとつひとつ応えていき、信頼を得ていく中で共通の話題などを見つけて、馴染みの関係をつくり、気軽に声をかけられるように努めており、利用者様のことを一緒に考えていくというスタンスで関わりを行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域からの認知度も上がってきており、地域の方々や自宅近くの方々もよく面会に来ていただけるようになってきた。また、出身地で開催される行事等への参加(利用者様・御家族の承諾を得て)や、こちらで行なう行事への参加呼びかけなどを通して、関係の継続支援を行っている。	ホーム近くの病院へ受診に来られた知人が来訪されたり、出身地の行事に参加した際やホーム行事で昔馴染みと再会している。又、ドライブを兼ねた自宅訪問や家族と外出・食事などに出かける方もおられ、本人のこれまでの生活の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個人の性格や好み・状態に応じて、関わり支援を行っている。また、利用者様同士の関係作りにおいても、誤解のないように、見守りや声かけ、フォローを行ない、関係を保つ支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了する場合であっても、必要に応じて、老健施設や病院を斡旋し、行き先がなくなるようなケースにならないよう支援を行っている。また、こちらに空きがある場合は、優先的に入所できるよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行なうときには、利用者様の要望やニーズを最優先して聞き取りや調査を行なっている。利用者様に日々の生活を送っていただく中で、利用者様の立場に立って物事を考え、無理なく希望や要望を引き出し、サービスに反映させている。	職員は日々のコミュニケーションや関りの中で、一人ひとりの表情から思いを汲み取るように努めている。又家族や関係者からの情報を基に本人の視点での検討を行い、意向に添ったケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のこれまでの生活歴や生活環境の把握については、利用者様・御家族・ケアマネージャー・主治医・過去に利用されたサービス提供機関などから情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や各種チェック表などを活用し、定期的にあセスメントを実施し、総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化があった場合、ケース会議を通して、課題提起や対応策を検討している。ケアプラン作成前に、面会や電話連絡などで、御家族からの意見や意向を取り入れて、プランの作成を行なっている。	本人・家族の要望やニーズに沿い、家族や関係者からの情報を基に定期的なアセスメントの取り直しや職員間での検討を実施した計画は、半年毎の見直しや変化時には書き足しや削除を行い現状に即したプランとなっている。又、ケース記録の方法を変更し、二度手間を省き解りやすく情報共有できるように改定を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	平成23年10月より、ネットワーク記録システム(パソコンによる記録管理)を行なっており、利用者様の情報の共有やサービスの実践に役立てている。介護計画については、記録をもとに見直しを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が特養新和苑に入所申請されている場合、重度化などで状況変化がある場合には、特養新和苑への入所支援などを行っている。日頃から、様々なニーズに対応できるよう、各サービス機関との連携や、法人内でのセクション間の情報共有などを積極的に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種活動や行事などを通じて、各機関との協働を行なうようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関(新和病院・岡田歯科医院他)との連携を密に行い、利用者様全員が主治医から月1回以上往診を受けるとともに、状態変化があれば受診を行なっている。主治医は入居者の状態をよく把握されている。	契約時にかかりつけ医について説明を行い本人、家族の希望に応じ入居後も町外の医療機関を支援したり、ホーム協力医をかかりつけ医とする入居者へ月に一度の定期往診と状態変化時の受診を支援し、必要時の歯科往診と共に入居者の健康をバックアップしている。毎月の近況報告の中や面接時に家族に健康状態を報告し、往診内容によってはその都度電話にて知らせ情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに勤務する看護職員を中心に健康管理を行なっている。また、医療機関と連携し、健康管理に役立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院中は職員の面会や病院側からの状態報告にて常に状況把握を行なっている。また、早期退院に向けての打ち合わせや協力は病院側からも積極的に協力して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護指針を制定し、定期的に終末期ケア研修も実施している。平成23年7月に看取りケアを実施し、本人様の意向や家族の要望、主治医の意見をより多く取り入れて終末期ケアにあたることができた。	入居時に本人・家族に対しホームの方針として看取りまでの支援が可能であることを説明し、必要時に意志確認を行い支援を決定している。重度化や終末期を見据え定期的な研修を重ね、本年度家族の要望に応え看取りを支援している。最後に本人の気がかりであった自宅への立ち寄りには近隣の人々に迎えてもらう等温かい協力も得られ、看取りを通じ職員が人と人とのつながりを身を持って経験し、色々な勉強をさせてもらったと管理者は語っている。	看取りを支援するなかで運営推進会議でも提案のあった家族との話し合いの重要性を職員はしっかりと認識して今回の看取りに関わっている。今後も入居者や家族のニーズに応え職員のメンタルにも配慮した支援となる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成しており、医師・看護師からの指示にて応急手当等を行える体制を整えている。また、普通救命講習受講や更新を義務付け、適切な初期対応が図れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での防災訓練参加やグループホーム独自の防災訓練を通して、火災や地震時の非難誘導訓練を行なっている。また、管轄の消防署により、定期的な危険箇所チェック、防災対策へのアドバイスを頂いている。	消防署立ち合いの総合訓練を母体施設と合同で実施し、ホーム単独で毎月、防災自主訓練を行っている。地震時は余震が終わった後に外に出る事や、母体への通報訓練、避難経路や場所の確認等を実施している。各居室はすべてはき出し窓となっており緊急避難口としての役割を持っている。	地元消防団より法人の花火大会時等に協力が寄せられており今後、火災訓練への参加を打診したい意向であり、実現を期待したい。又夜勤者によるガスの元栓の安全確認が行われているが、他の項目と共にチェック表として残す事で職員の意識づけを図りより確実な点検となると思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	声かけについては、定期的に状況把握・指導を行なっている。基本的に方言は多用せず、敬意を込めた声かけとなるように努めている。プライバシー保護については、羞恥心に配慮した対応を心がけている。	職員は入居者がわかり易い方言を使って会話しながらも強い口調になったり、慣れ合いにならないよう配慮しながら対応している。研修にて個人情報やプライバシー、理論について職員の意志統一を図り、ホーム便りへの写真掲載等について家族より同意書をもっている。守秘義務については入職時に職員と契約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個人の趣味や性格に応じて、必要な情報提供を行ない、自己決定の働きかけや自己選択していただけるような声かけを行なうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースや要望を尊重し、メニュー決めや日程決めでは、必ず利用者様の要望を聞くようにしている。日程決めでは朝食時にある程度なををするかを皆で話し合っている。この他についても、常日頃より、自分で選ぶということを利用者様に意識していただいている。また、利用者様の要望を最優先させる方針でサービス提供を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様本人の個性や好みを尊重した支援ができています。理・美容については希望があれば、原則的には御家族で対応して頂いているが、御家族の都合がつかない場合はこちらで付き添いも行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについては、利用者様の状態や好みに応じたものを提供している。調理の際には旬の食材と一緒に調理し、メニューに季節感を出している。また、定期的に、利用者様からのリクエストのご馳走の日、個別の誕生会、記念日の祝いを実施している。	入居者の好みを聞きながら献立を決め、近隣のスーパーを利用し食材の買出しに出かけている。外出を兼ね時には入居者も買い物に同行し季節の食材を目で楽しむ機会としている。それぞれが得意とするテーブル拭きや料理の味見・野菜の下ごしらえ等に関わり、嚥下状態に合わせ刻みやお粥・ミキサー食で対応している。肉の苦手な入居者へは魚等の代替食を準備し、職員もテーブルの間あいだに入りながら共に同じ食事を摂り、エプロンの必要な方へも尊厳に配慮した使用法で、進み具合等の声かけをしながら賑やかな食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメント時に、平均的な食事量や水分摂取量を記入し、日々の食事・水分提供に役立てている。また、その日の状態、要望に応じて調節を行ない、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔清潔への呼びかけ、口腔清潔援助の実施により、利用者様全員が口腔清潔を保たれており、週1回以上の義歯消毒において義歯の清潔を保っている。また、義歯の状態や歯茎などの状態にも気を配り、異常があれば歯科受診を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活用し、利用者様一人一人の排泄パターンを把握することで、トイレ誘導やパット交換を無理なく実施することができる。また、自力でトイレを使用される方へは、さりげなく見守り・援助を行っている。	個々の排泄チェック表で、時間や様子を見て声かけ誘導しながらトイレでの排泄を支援している。身体レベルの低下に伴い立位が難しくなった入居者へはやむを得ずオムツへの移行をしている。広いトイレ内には更にカーテンを設けたり、大きい声で誘ったり失敗が他にわからない様心配りしながら対応している。夜間帯のポータブルも入居者の安心の為に置いたり見守りながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のため、牛乳の提供や繊維食品などの提供を心がけている。排便間隔も排泄チェック表にて状況把握を行い、腹部マッサージを行なうなどのアプローチを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者様一人ずつ状態に応じた入浴支援を行なっている。ゆっくりとしたペースで入浴して頂けるように、入浴中の見守りの場所や声かけに配慮している。毎日、昼夜と入浴可能である。	安全に一人で入れる入居者は居られないが個々に合わせ同姓介助で支援しながら一日置きを目安に個浴でゆっくり入ってもらうよう心掛けている。拒否の方へも無理強いをせず次の日に対応したり足浴やシャワー浴も取り入れている。季節のゆず湯や菖蒲湯は入居者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様全員の睡眠状況を把握し、日中の活動にできるだけ参加して頂くことや、夜間はできるだけ物音を立てないように配慮し、安眠へとつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理等は看護師に責任をもって管理させている。その他の職員も薬剤情報提供書などから、効果・副作用・用法・用量を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとは、それぞれの利用者様が個性や趣味に応じて、日常の中で自発的に行われたり、声かけて役割を担っていただくように支援している。気晴らし支援については、散歩やドライブなどで適宜対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の状態や好み、車酔いなどの理由で利用者様全員参加の外出の機会は減ってきているが、年に1~2回は全員で外出できるように努めている。通常時は個別の希望や状況に応じて外出支援を行っている。	母体の車を利用し時にはお弁当持参で花見や魚釣り等へ出かけている。個別の買い物支援や地区行事への参加、ホーム周辺の散歩を職員と共に楽しみ、車イスの方も一緒に出かけている。家族による外食や温泉等の支援も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者様に行なって頂くようにしているが、利用者様の管理能力に応じて預り金として管理し、月ごとに収支報告書に記載し、利用者様や御家族に収支報告を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい生活空間の提供のため、常に照明には気を配っている。また、共同で利用される空間については、季節に応じた装飾を行っており、こまめに清掃を行っている。また、ゆったりとした時間となるように、職員はせかせかした動きにならないように注意している。	玄関を入ると回廊式にリビングや居室が配慮され、多方向から望む中庭にはホームの成長と繁栄を願って石のオブジェが飾られている。各コーナーには植物の鉢や季節の飾り付け、家族の作品等が壁に掛けられている。対面式の台所と食卓、段上りの和室、ソファコーナーが一体となった落ち着いた空間で入居者は思いに過され得意の踊りを来訪者に披露する入居者の姿にホームでの生活がうかがわれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーや畳間、リビング、中庭の活用などを行なっている。利用しやすいように家具の配置や温度調節、整理整頓を心がけ、利用者様は思い思いの場所で気ままに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際に、使い慣れた家具の持込みを促し、利用者様によっては使い慣れた電化製品、家具、思い入れの深い小物などが持ち込まれている。	各居室が大きなはき出し窓により明るく開放的である。中には入居者自ら掃除をされる方もおられ大切に使用されている。個々に必要な物品を持ち込まれ担当職員の作品等も飾られフローリングにベッドを置いたり畳敷きにベッドを置く等使い勝手に合わせ配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	紛らわしいものを置かず、施設内には表札などで場所を表すようにし、利用者様の行きたい場所がわかるように配慮している。また、常に清潔を保つため、整理・整頓、清掃に力を入れている。		